

東京都小学校国語教育研究会研究主題

# 他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める—

書くこと部 研究主題

児童の深い学びを目指す、主体的・対話的な書くことの単元づくり

## 第4学年国語科学習指導案

### 単元名 私たちの防災ガイドで家族を守ろう

### ～文章のつながりを工夫して、自分の考えを書こう～

学習材名 「もしものときにそなえよう」(光村図書 4年下)

日時：令和6年12月16日(月)5校時

児童：府中市立四谷小学校 第4学年3組 26名

担任：府中市立四谷小学校 主任教諭 生田 寛昌

#### 1 単元の目標

○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解することができる。

[知識及び技能] (2) ア

○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。[思考力、判断力、表現力B] (1) イ

○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

[思考力、判断力、表現力B] (1) ウ

○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

#### 2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	○書くことにおいて、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)	○自分の考えが伝わるように、粘り強く構成を検討したり、書き表し方を工夫したりし、今までの学習を生かして文章を書こうとしている。

#### 3 単元構想

##### (1) 児童について(児童観)

学習規律を守り、落ち着いて学習に取り組める児童が多い。教師の指示を聞いて取り組むことができるが、自分で計画を立てて進めていく学習の経験が少ないため、自ら学びを進めていこうとする意識はまだあまり育っていない。

日常の言語生活では、ペアトークを1日に1回は取り入れており、「相手に質問をする→答える→返事やコメントをする→聞き返す…」というコミュニケーションを通じた意見交流をしている。

「書くこと」については、年度当初は書き慣れていない様子で、学級の約半数の児童が書き始めるまでに十分な時間を要していた。現在は、文型を示した振り返りの記入など繰り返し書く活動を通して、書くことに少しずつ慣れてきている。

7月単元「新聞を作ろう」では、項目ごとに情報を集め、分類・整理し、友達と協力して、伝えたい項目を目立つところに配置する「構成」を主として学び、班で1枚の新聞にまとめた。本単元では児童が意欲的で、取材（インタビュー、アンケートなど）に特に張り切って取り組んだ。「テーマを班で決める」「自分たちの班のペースで、学習計画を参考に進める」「フォームでアンケートを取って取材したり、撮影した写真を用いたりする」などが、意欲的に取り組めた要因として考えられる。また、ゴールまでにどのような活動が必要かを全員で考え、共有したことで、児童一人一人が見通しをもって活動を進めることができた。この単元では指導事項の構成について班で相談して決定した。その経験を生かして、今回の単元「私たちの防災ガイドで家族を守ろう」では個人で構成を決めていく。家族に何を中心に伝えたいのかを考えて書く活動を通して、児童一人一人に文章の構成を考える力を身に付けさせたい。

## (2) 学習材について（学習材観）

学習材「もしものときにそなえよう」は、自然災害の際に自らの命や生活を守る方法、備えておくものについて調べ、その必要性について家族に伝えるように書く活動を取り上げている。その際に、①調べる時に図や表を使って整理すること、②考えを伝えるために理由や例を挙げて書くこと、について、例を挙げて詳しく説明している題材である。また、文例として、大雨のときの対応や、地震への備えについて述べたものが挙げられている。

我が国は、地震や台風の発生しやすい国である。さらに、児童の住んでいる府中市四谷地区は多摩川に隣接していることから水害の影響を大きく受けやすく、児童にとって、地震、台風・水害は大変身近なテーマである。また、雷、竜巻、大雪、噴火などの自然災害についても、ニュース等で耳にすることが多い。社会科や総合的な学習で学んできた水害の危険性とも併せて、児童には「4年生のこれまでに学んだことを生かして、自然災害が起こった時に家族の命や生活を守るために、自分にできることをしたい。」という意欲が生まれてくるのではないかと考えた。

学習材化にあたっては、次のような工夫を行った。

### ●カリキュラム・マネジメントを通した、教科横断型の学習

社会科では水害についての学習を通して、過去の水害の事例や生活への影響、本校学区の水害ハザードマップ、水害を防ぐ公的な取組・工夫などについて学んだ。また、総合的な学習の時間に多摩川について学ぶ際、多摩川の水害の危険性について学んだ。これらの学習を通して、児童は水害に対する基本的な知識や危機感をもっている。

### ●府中市防災危機管理課との連携

防災危機管理課の職員をゲストティーチャーに招き、自然災害が起こった時に困ることや避難所の暮らしの実際を語っていただくことで、児童が「もしもの時の備え」の必要性を感じられるようにする。加えて、「我々防災危機管理課職員も、四谷小の4年生の意見が知りたい。府中市の防災施策を考えるうえで参考にしたい。」と語っていただく。

「自分の書いたものが家族を守ることにつながる。市の職員にも考えを聞いてもらえて、自分たちの意見を府中市の防災の役に立てる。」という自己成就感を得られることが、児童にとっての学ぶ価値になると考える。成し遂げたいゴールに向かう手段として、身に付けたい力を意識して書く活動を行うことで、本単元の重点である「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる」能力を得られることも、児童にとっての学ぶ価値になると考える。

## (3) 単元について（単元観）

本単元では、「書きたい」と思える必然性を児童にもたせながら、「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する」という指導事項を達成したいと考えた。

第一次では、課題設定を行う。児童が学習活動の目的意識・相手意識をはっきりともち、書く必然性を抱くために、ゲストティーチャー（府中市防災危機管理課職）の講話を取り入れる。加えて、「もしもの時にどのように備えたらよいか、その備えがなぜ大切かを、家族に理解してもらう」ためには、相手が納得できるように理由や、具体的に想像できるような事例が必要であることを、児童が意識できるようにする。さらに、学習計画のモデルを学級全体で考えさせたり、「学習ガイド」を用いたりすることで、学習の見通しをもてるようにする。

第二次では、情報収集・内容検討、構成の検討、考えの形成、記述、推敲を行う。ここでは、学習計画モデルを基にしながらも、それぞれの進捗で学習を進めていくようにする。毎時間、事前に立てためあてに対してどうであったかを振り返り、次時に達成したいことを各自が考え、自分のめあてを立てる。このように、各自が「身に付けたい力」の課題意識をもちながら、自ら学びを進めていけるようにする。

実の場としては、家族や、市の防災危機管理課職員に読んでもらい、返事をもらう活動を計画している。

## 4 書くこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

書くこと部多摩地区が考える「言葉による見方・考え方を働かせる」児童の姿とは、主に次の2つである。

### (1) 「作文ガイド」を作成し、活用しながら書き表し方を工夫して書く姿

児童自身が現在身に付いている書く力を確かめ、可視化する時間を設けることで、書くことにおける既習事項をはっきりさせ、それを「作文ガイド」としてそれぞれの児童がまとめられるようにする。また、教科書の既習事項を振り返るページや文例、友達の「作文ガイド」を参考にして、書くことの学習で大切なことを見付け、整理する活動を行い、学級で「作文ガイド」を増やしたりまとめたりできるようにする。さらに、その「作文ガイド」を本単元の自分の意見文にどのように活用するか、どんな点を意識して文章の内容や構成を検討するとよいかを考えながら学習を進めることで、「言葉による見方・考え方」を常に働かせながら書くことにつなげる。

### (2) 書く内容の中心をはっきりさせ、「はじめ・中・おわり」のつながりを意識して構成を工夫する姿

書くことにおける目的と相手を意識しながら、情報収集及び内容の検討を行うことで、児童が自分の意見文で書く内容の中心を明確にして学習を進められるようにする。さらに、本時において段落相互の関係、文章の全体に着目して2つの構成メモを比較する学習活動を行い、言葉による見方を働かせて、「はじめ・中・おわり」のつながりに気付くことができるようにする。そして、言葉による考え方を働かせ、整合性の取れた「はじめ・中・おわり」になるように、自分の考えとその理由や事例とのつながりを意識して構成を工夫する児童を目指す。

## 5 研究主題に迫るために

### (1) 児童が(本単元において)身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

本単元において「身に付けたい力を意識して、主体的に学習に取り組む」児童の姿とは、自分の家族を災害から守る防災ガイドに仕上げるためには、「書くことを中心」とした自分の考えを支える理由やより具体的に説明する事例を示す必要があると気づき、自分の考えにぴったり合った理由と事例を選んで書こうとすることである。または相手・目的意識をもって情報収集した具体的な事例を「書くことを中心」と決め、それまで曖昧であった自分の考えをはっきりさせることである。さらに以下のような手だてを取ることで、書くことにおける既習事項を想起し、本単元で学んだこととともに自分で整理したりまとめたりできるように促す。そして、その活用を自覚的に行うことで、自分で書き進めたり書き表し方を工夫して書いたりする児童の姿を目指す。

#### ●我が家の防災への意識を高め、自分の考えとそれを支える理由や事例の有用性を感じられる単元導入

社会科、総合的な学習の時間との横断的な単元学習を設定する。また、第一次1時間目にゲストティーチャーを招いて具体的な事例を挙げた防災に関する講話をしていただく。多摩川に近い本校の学区域の特徴や具体的な自分の家族を相手として想定して、防災の必要性を実感できるようにする。さらに、それまでの学習で防災の必要性について漠然と考えていた児童も、「どうして防災が必要なのか(理由)、例えばどのようなことなのか(事例)」を示して説明することが、分かりやすく自分の考えを表すには必要であると気付けるようにする。

#### ●往還的で複線型である学習過程における、自分の指標となる「作文ガイド」「学習振り返りシート」の活用

本単元では、児童の書くテーマ等が異なる複線型の学習に加え、情報収集や内容・構成の検討をはじめとした学習過程を行き来しながらそれぞれの進捗で書き進める柔軟な学習過程を展開する。そのため、どのように書くことよいかという「作文ガイド」や自分自身が自分の学習状況等を把握したり修正したりすることなどが必要である。

「作文ガイド」には、これまで学んできたことを整理したり、本単元で学んだことを追記したりして「作文ガイド」に書き方のコツをまとめていく。その際、自己内対話だけでなく他者との対話も取り入れ、学級で共有することで、本単元の重点指導事項及びその系統性を意識して指導する。例えば、「意見文としての文章構成」「段落相互のつながりを意識する」等の第3学年及び第4学年の指導事項だけでなく、「事柄の順序に沿った構成」「内容のまとまりに分ける」「文章の冒頭で内容を大まかに説明する」「始め—中—終わりの文章構成」などの第1学年及び第2学年の指導事項も「作文ガイド」にまとめられるように工夫することで、児童が既習事項を生かしながら学びを進められるようにする。

また、「学習振り返りシート」を用いて、各時間の自分のめあてを立てたり、学びを振り返ったりする場を設定する。自分の学習の進捗状況を把握して学びを調整し、学んだことを自覚できるように可視化する。

#### ●身に付けたい力の自覚を促す構成の例の比較

児童が各々の進捗で学習を進めていく本単元において、重点目標については、学級全体で考える時間を設けた。6/9時間目の本時では、ちぐはぐな悪い構成の例を示し、学級でそれをよりよくしていくことで、自分の考えと整合性の取れた理由や事例を示す必要性を意識して構成を考えることができるようにする。

## (2) 学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもち、

(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

本単元において、自分の家族に必要な防災について自分の考えをもち、相手や目的を意識した「題材の設定、情報の収集、内容の検討」が必要である。また、往還的で複線型の学習過程の中で、児童が身に付けたい力を自覚しながら主体的に学習に取り組むことができるようにしたい。さらに、自分の考えを書いた文章や学習過程の各段階のメモなどを友達と読み合い、その内容や表現について感想や意見を述べ合うことで、自分の文章のよいところを見付け、友達のよい書き表し方に気付くようにする。そして、自分の考えをはっきりさせたり、広げたり深めたりできるようにすることで、「書くこと」の学習における言葉による見方・考え方を働かせ、言葉への自覚を高められると考えている。この実現のために、以下のような単元構成や言語活動の工夫を行う。

### ●児童の実態に合わせた相手意識の設定

本単元では、書くことの相手意識を家族と設定した。4年生の発達の段階を考慮し、身近な家族である方が取材や選材、内容の検討等が容易になると考えたからである。具体的に自分の家族をイメージしながら必要な防災について自分の考えをもち、書いたものを読んでもらいフィードバックされたりすることで、学びを確かにすることにつなげたい。また、家族が相手であるが、それぞれの防災への取り組みを意見文にまとめることで書くことの必要性を感じ、書いたものを交流しやすい言語活動を設定した。

### ●座席表型支援簿の活用

座席表型指導補助簿に児童の学習状況等をまとめ、指導と評価、支援を一体化する。児童の書くことのテーマや学習感想、進捗状況等の把握した学習状況を基に、教師が適宜評価したりアドバイスしたりする。更に、児童にも紹介することで、児童自身がやり取りをする相手を選んだり、自分の学びの参考にしたりし、学習調整力を高め、自己内対話や文献、他者との対話的な学習となるように促す。

### ●短期的な〇次としての「意見交流会」の設定

〇次とは、児童の学びへの興味や意欲、関心を醸成する期間である。本学級では、「給食よりお弁当がいい」「将来役に立つのは国語より算数だ」などの二項対立の課題に関して、2学期以降学級で意見交流会を実施してきた。会を繰り返す中で、自分の考えを支える理由や事例を示すことが、自分の考えを分かりやすく伝えるには必要であると意識できる児童が増えた。

### ●児童同士の交流を促す工夫

児童が交流する相手を選ぶ際の参考となるように、児童の進捗状況や児童の書くことの内容を示した掲示を示す。また、交流する際にただ聞き合うだけでなく「本当に?」「どうしてそう考えたの?」と児童相互に尋ねたりすることで、児童が推敲したりすることで、情報収集をやり直す等の学習過程を行き来したりするきっかけとなるようなやり取りを目指す。そのため、どのようにやり取りをするとよいかのモデルを示すことで、話すこと・聞くこと領域も一部統合した学習を進めていく。

## (3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

本単元を通して獲得できる言葉の力とは、自分の考えを支える理由と自分の考えを具体的に説明する事例を示して文章構成を考えることが重要だと考えることである。相手・目的意識をもって情報収集した具体的な事例を「書くこと」の中心と決め、それまで曖昧であった自分の考えをはっきりさせることである。獲得した力は、日常生活の次のような場で活用することができる。

### ●4年3組防災ガイド

それぞれの防災に関する意見文を「4年3組防災ガイド」として捉え、それを学級で読み合い家族に紹介することで、達成感を感じたり防災に関するアイデアを得られたりするという内容面での学びの充実を図る。一方、自分の考えを支える理由と事例を示して書くことと分かりやすいという書き表し方の工夫についても確かめられるようにする。

### ●作文ガイドの活用

「作文ガイド」には、既習事項や本単元において身に付けてきた「書き方のこつ」をまとめている。この「書き方のこつ」は、他教科の書くことの場合でも活用できるものである。国語で学んだ学習用語や読みの視点などの大切なことをまとめた「国語のいろは」とともに、今後の学習でも追記していき、必要な時に確かめながら学ぶことができると考える。他教科や日常生活において活用することで、学んだ「書き方のこつ」の実用性を感じ、その有用性や自己の言葉の力の高まりを実感できるようにする。

## 6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
○次			<p>●長期的なもの ◎短期的なもの</p> <p>●国語、理科、社会科において、単元末に振り返りを作文し、自分の考えを整理して書くことに慣れる。</p> <p>●朝学習でテーマを設定したミニ作文を書いたり、二項対立のミニ意見交換会を行ったりすることで、説得力のある意見文を書くには、自分の考えの理由や事例を挙げる必要性を実感できるようにする。</p> <p>●言葉の宝箱を活用し、児童が自分の気持ちを表すびったり言葉を選べるようにする。</p> <p>◎社会科では水害等、総合的な学習の時間では多摩川について学び、その基礎知識を身に付ける。</p>	
第一次	1 2 課題の設定	<p>1 府中市の防災危機管理課の方の講話を聴き、課題意識をもつ。</p> <p>2 自分の家は、もしもの時の備えをどの程度しているのか振り返る。</p> <p>3 学習のゴールを確かめる。</p>	<p>○災害への備えの必要性を感じられるように、地震や水害などが発生した際には、どんなことが困るのかについて事例を基に話していただく。また、「どうして防災が必要なのか(理由)、例えばどのようなことなのか(事例)」を示して説明することが、分かりやすく自分の考えを表すには必要であると気付けるように、防災危機管理課の方には理由や事例を挙げて説明していただくように依頼する。</p> <p>○防災危機管理課の方に「皆さんの防災に対する意見が知りたいです。」と投げかけていただくことで児童の、防災に関する文章を書く意欲を高める。</p> <p>○書くことの目的意識、相手意識をはっきり示すことで、「家族がどの程度準備してくれているのか知りたい。」「防災を学習した私たちが『もしもの時の備えの大切さ』を家族に伝えることで、家族の生活を守りたい。」等具体的に考えられるようにする。</p>	
<p>私たちの防災ガイドで家族を守ろう ～書き表し方を工夫して、家族に分かりやすく、自分の考えを書こう～</p>				
		<p>4 文例を見て、本単元の学習の見通しをもち、学習計画を立てる。</p>	<p>○教科書における大雨や地震の文例の他に、「雷が鳴っている時の避難の仕方」、「大雨や地震の時は正しい情報を得る大切さ」の文例等を複数示すことで、災害の種類やその備えについて具体的に捉えられるようにする。</p>	
<p>【大まかな学習計画】</p> <p>1・2 学習課題を確かめ、学習の見通しをもつ。 これまでの「書くこと」の学習を振り返り、学び方や表現の工夫を共有する。</p> <p>(課外) 自分の家のもしもの時の備えを調査する。</p> <p>3～8 取材、構成、記述、推敲。</p> <p>9 学級で読み合う。</p> <p>ゴール 家の人に読んでもらう。防災課の方に読んでもらう。</p>				
		<p>5 作文ガイドを作り、よりよい作文を書くための見通しをもつ。</p>	<p>○「取材」「構成」「記述」「推敲」の各段階においてどのようなことに気を付けて取り組むべきかを思い出し、「作文ガイド」として記入する。この作文ガイドを生かして書くことで、児童がよりよい作文が完成できるという見通しをもてるようにする。</p>	

		6 次時の自分のめあてを立てる。	<p>○本単元の重点指導事項及びその系統性を意識し、第3学年及び第4学年の指導事項だけでなく、第1学年及び第2学年の指導事項も「作文ガイド」にまとめられるように、第1, 2学年での学習を振り返る。</p> <p>○学習計画、作文ガイドを意識させ、次の時間に達成したいこと、頑張りたいことを考え、次の時間の自分のめあてを立てられるようにする。</p>	
第二次	3 4 5 6(本時) 7 8	<p>1 書くことを選び、伝えたいことを明確にする。</p> <p>2 災害から、命や生活を守る方法を調べる。</p> <p>3 文章全体の構成や展開を考える。</p> <p>4 書き表し方を工夫して記述する。</p>	<p>○各々が立てた本時のめあてを確かめるよう、毎時間の初めに、前時の内容・学習計画を振り返る。また、作文ガイドから本時で生かしたい項目を児童が確認できるように、作文ガイドを見直す場を設ける。</p> <p>○毎時間の終わりに、事前に立てためあてに対してどうであったかを振り返り、次の時間に達成したいこと、頑張りたいことを考え、次の時間の自分のめあてを立てられるようにする。</p> <p>(情報収集、内容検討)</p> <p>○児童が家族への取材した「我が家が困ること」や、関連して調べたことを集めたりしたことをウェビングマップ形式にして意見を整理し、教室に掲示しておく。</p> <p>○相手意識(家族)や目的意識(困らないように、具体的な備えをしようと思わせる)をもって取り組むことができるように促す。</p> <p>○児童がカードを選んでまとめられるように、取材カードは「困ること」「対策」などと項目別に用意する。</p> <p>(構成の検討)</p> <p>○書くことの内容を明確にできるように、家族に一番伝えたいことに色を付けるように指示する。</p> <p>○構成メモは、取材カードを整理して貼ったり、考えたことを余白に追記したり、読んでいる人の気持ちを表す「読み手シール」を貼ったりするまとめ方を例示する。</p> <p>○児童が構成の段階を経て記述する前のタイミングを見計らい、改めて構成について考える時間を設定する。「自分の考え」とそれを支える内容に一貫性があることが大切だと気付けるよう、「自分の考え」がそれを支える内容と一致していない構成メモと、一致している構成メモを提示し、比較する場を設ける。</p> <p>(記述)</p> <p>○相手に分かりやすい文章にするために、文例を確かめるとともに、理由や具体例を表す言葉があることを提示する。</p>	<p>◆思考判断表現</p> <p>★ワークシート</p> <p>・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えているかの確認</p> <p>◆知識・技能</p> <p>★ワークシート</p> <p>・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解しているかの確認</p> <p>◆主体的に学びに向かう態度</p> <p>★ワークシート</p> <p>・自分の考えが伝わるように、粘り強く構成を検討したり、書き表し方を工夫したりし、今までの学習を生かして文章を書こうとしているかの確認</p>
			<p>○理由を表す言葉 「なぜなら～」 「理由は、」 「どうしてかという～」 「～から」 「～ので」 「～のため」</p> <p>○具体例を表す言葉 「例えば～」 「具体的には～」 「～などがあげられる」</p>	

			<p>(推敲)</p> <p>○児童の学習過程の進捗を見計らい、推敲のポイントを示すとともに、自分だけでなく、友達とも推敲できる場を設ける。</p>	
			<p>○推敲のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えとそれを支える理由や事例がびったり合っているか。</li> <li>・分かりやすい理由や事例を選んでいるか。</li> <li>・読み手が分かりやすい表現になっているか。(理由や事例を表す言葉)</li> </ul>	
第三次	9 共有	<p>1 本時のめあてを確かめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>友達と「いいね」を見つけ合い、書き表し方の工夫を考えよう</p> </div> <p>2 完成した文章を読み合い、書き手として工夫したところを伝えたり、読み手としてどのようなところがよいと思ったか感想を交流したり伝えたりする。</p> <p>3 書き表し方の工夫を振り返る。</p>	<p>○「いいね」の視点を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えと理由・事例がびったりか。</li> <li>・理由や事例が具体的に分かりやすいか。</li> <li>・読み手に分かりやすい表現か。</li> </ul> <p>○自分の文章を振り返ることで、自分に身に付いた力を自覚できるように促す。さらに、その力が汎用的であり、あらゆる場面で生かすことのできるものであることを伝えて、次に生かそうとする児童の意欲を引き出す。</p>	
実の場	家庭	<p>・児童の意見文を学級で「防災ガイド」として読み合うとともに、家族や防災課の方にも読んでもらい、感想をもらう。</p>	<p>○意見文を書いたことによる児童の達成感を高めるために、保護者に子供の防災ガイドを読み感想を書くことを依頼する。</p> <p>○府中市役所の防災危機管理課の方と連携し、感謝・励ましのメッセージなどをいただくことで、児童の自己有用感を高めることにつなげる。</p>	

## 7 本時の学習

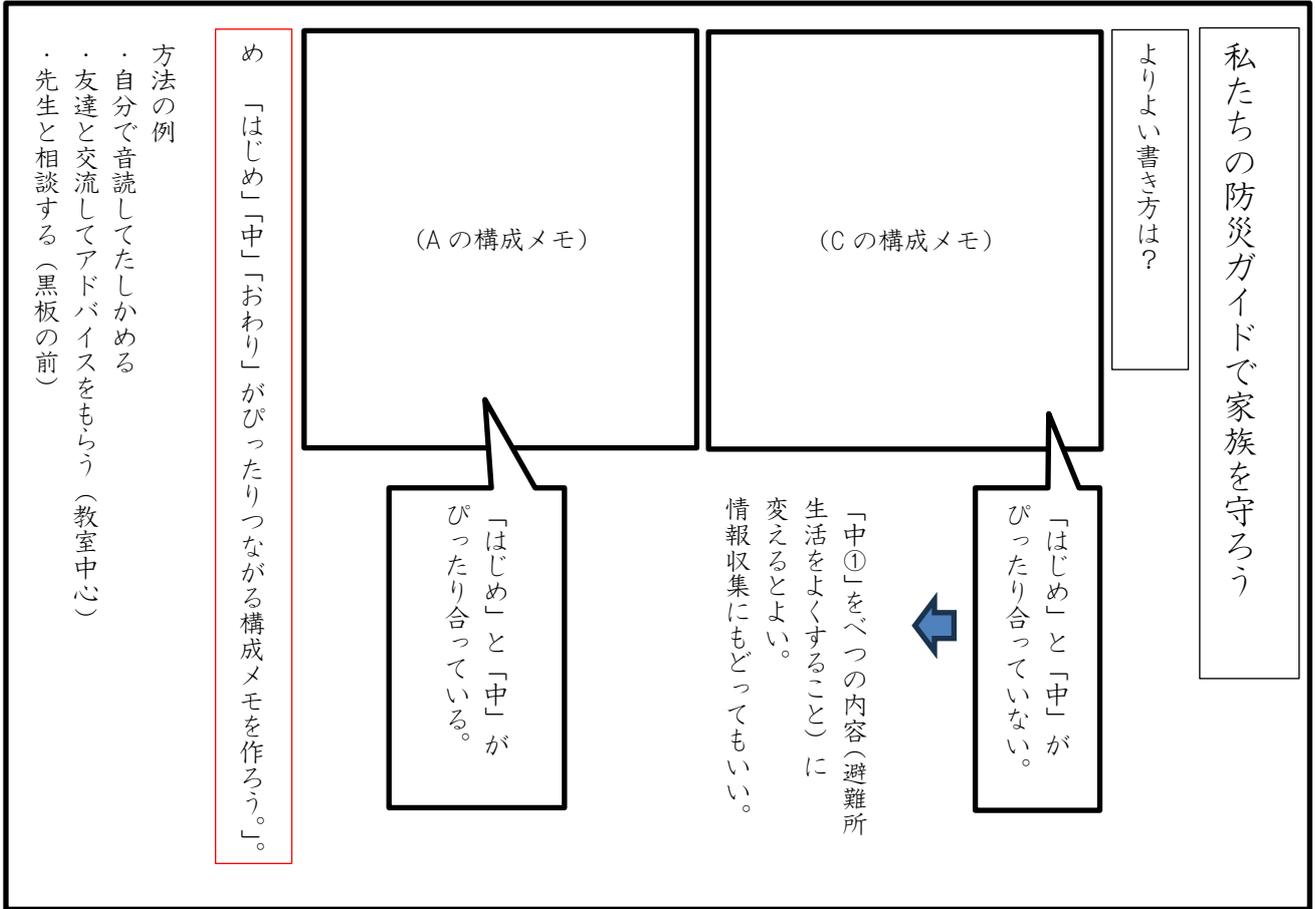
### (1) 本時のねらい

「はじめ・中・おわり」に何を書くのか、どのようにつながるのかを意識して、自分の考えが明確になるように構成を工夫することができる。

### (2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
1 前時までの学習を振り返る。	○前時までの学習活動を振り返ったり、作文ガイドを見直してどのようなことに気を付けて作文に取り組んでいきたいかを再認識したりできる時間を取ることで、本時の自分の学習課題を意識できるよう促す。	
2 序論・本論・結論のつながりが不十分な構成メモを学級全体でよりよくすることで、自分の考えと、それを支える理由や事例との関係を考える。	○自分の考えとそれを支える理由や事例が不整合な構成メモと、ぴったり合った構成メモを提示する。二つのメモを比較することで、自分の考えとそれを支える理由や事例に一貫性があることが大切であることに気付けるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「はじめ」「中」「終わり」がぴったりつながる構成にするために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の考え」に合うように、「中」の事例を変更する。</li> <li>・書きたい内容の中心が「事例」なら、「自分の考え」の文言を再検討して一貫性が出るようにしてもよい。</li> </ul> </div>		
3 本時のめあてを確かめる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「はじめ・中・おわり」がぴったりつながる構成メモを作ろう。</p> </div>	
4 自分の考えと理由や事例とのつながりに意識して、構成メモを見直す。	<p>○一貫性のある構成にできなければ情報収集に戻ってもよいことを伝えることで、児童が必要に応じて学習活動を往還できるよう促す。</p> <p>○「自分の考え」と「それを支える内容」に整合性があるかどうかについて、交流したい相手を探して交流し合える場を教室中央に設ける。児童が自分に合った活動の仕方を選べるように、単元全体を通して「交流したい児童は机を中心に寄せれば交流できる。」「一人で集中して取り組みたい児童は机を両端に寄せれば一人で学習できる。」と、交流の方法について伝えていく。</p> <p>○交流する相手を見つける際は、教室に掲示してある「テーマ一覧表」を参照して探してもよいことを伝える。</p> <p>○『自分の考え』と『中』で書いた事例がぴったりつながっているかを交流できるとよい。」「自分の考えと中の事例がぴったりつながっていない場合は、取材メモに戻ってぴったりなものを探すと良い。」と、構成メモの例で比較して分かった指導事項に合わせて交流の視点を伝える。</p> <p>○構成メモの作り方がよく分からない児童は前に来てよいことを伝え、教師が個別に、児童のつまずきに合わせてアドバイスをする。</p>	<p>◆思考判断表現</p> <p>★ワークシート</p> <p>・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えているかの確認</p> <p>◆知識・技能</p> <p>★ワークシート</p> <p>・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解しているかの確認</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落相互の関係、文章の全体に着目して2つの構成メモを比較することで、「はじめ・中・おわり」のつながりに気付いている。(見方)</li> <li>・整合性の取れた「はじめ・中・おわり」になるように、自分の考えとその理由や事例とのつながりを意識して構成を工夫している。(考え方)</li> </ul> </div>		
5 学習計画表を用いて学習を振り返り、次の時間の見通しをもつ。	○めあてに対してどうであったかを振り返り、次の時間に達成したいこと、頑張りたいことを考え、次の時間の自分のめあてを立てられるようにする。	

板書計画



# 8 資料

## (1) 学習計画表

学習のめあて 自分の考えが家族に伝わるように ( ) を意識して、家族を守る防災ガイドを書こう。

作文ガイド ～めあてを達成するために使ってみよう、文章を書くときのコツ～									
									文章を書くときのコツ
9	8	7	6	5	4	3	2	1	時間
								府中市の職員さんの話を聞き、学習計画を立てよう。	学習計画

私たちの防災ガイドで家族を守ろう

四年 ( ) 組 名前 ( )

### ・学習計画表の記入例

学習のめあて 自分の考えが家族に伝わるように (文章のつながり) を意識して、家族を守る防災ガイドを書こう。

作文ガイド ～めあてを達成するために使ってみよう、文章を書くときのコツ～									
文末の「ですます調」と「である調」をまぜない。	使い方に気を付ける。	引用するときは「」の理由や例は短く一言。そのあと、くわしく説明を書く。	中は、伝えたい順へ書く。	終りに「はよむ」かけて入れる。	最初に話題提示して、どんな話を分かってもらう。	内容のまとまりごとにだん落を入れる。	そうかつがたで文を書く。	いろいろな方法で情報集める (インターネット・本・インタビュー等)	文章を書くときのコツ
9	8	7	6	5	4	3	2	1	時間
○共有する ○3,7かえりをする。	○見直しをする。	○本文を書く。	○こう成を考える。	○情報収集 情報をつなげる、まとめる。選ぶ。				府中市の職員さんの話を聞き、学習計画を立てよう。	学習計画

私たちの防災ガイドで家族を守ろう

四年 (三) 組 名前 (生田 寛日)

(2) ふりかえりシート

ふりかえりシート 四年( )組 名前( )

学習内容	一・二時間目	学習計画作り	ふりかえり						
------	--------	--------	-------	--	--	--	--	--	--

学習内容	三時間目	今日のめあて	ふりかえり						
------	------	--------	-------	--	--	--	--	--	--

学習内容	四時間目	今日のめあて	ふりかえり						
------	------	--------	-------	--	--	--	--	--	--

学習内容	五時間目	今日のめあて	ふりかえり						
------	------	--------	-------	--	--	--	--	--	--

ふりかえりシート 四年( )組 名前( )

学習内容	六時間目	今日のめあて	ふりかえり						
------	------	--------	-------	--	--	--	--	--	--

学習内容	七時間目	今日のめあて	ふりかえり						
------	------	--------	-------	--	--	--	--	--	--

学習内容	八時間目	今日のめあて	ふりかえり						
------	------	--------	-------	--	--	--	--	--	--

学習内容	九時間目	今日のめあて	見つけた自分、友達 の文書のよさ						
------	------	--------	---------------------	--	--	--	--	--	--



かみなりの音が近づいてきたら、どうしよう

今年の夏、かみなりが理由で花火大会が中止になったニュースが何度もありました。そのかみなりから身を守るには、安全な場所へひなんすることが大切です。

理由は、広い場所だと人に落ちやすい可能性が高いからです。気象庁の「雷ナウキャスト」によると、グラウンドや屋外プール、砂浜、海上などの開けた場所は、人に落ちやすいそうです。だから、屋外の広い場所で雷に気付いたら、安全な場所に移動しましょう。安全な場所とは、例えば、家や学校などの建物、自動車や電車などの乗り物のことです。近くで安全な場所を見つけて、すぐに中に入るといいです。

建物の中にひなんしても、まだきけんがあります。「かみなりのひみつ」という本には、「かみなりは建物のかべを流れることが多い」と書いてありました。だから、「かべや家電せいひんからはなれていたほうがいい」とも書いてありました。そのため、部屋の真ん中にいるといいです。

このように、かみなりの音が近づいてきたら、かみなりが落ちたり流れたりしない安全な場所へ移動することが大切です。かみなりの音が近づいてきたら、すぐひなんしてください。

地しんからペットを守るために

地しんはいつ起こるか分からない。私の家には、犬がいる。犬も大切な家族だ。大切なペットを守るために、地しんにそなえてじゅんびしておくことが大切だと考える。

例えば、リードの位置を同じ場所にすることだ。Zエス 防災のホームページには、地しんが発生するとペットもパニックになり、いつもとちがう行動をとることがあると書かれていた。そのため、すぐに犬にリードを付ける必要がある。私の家にはリードを置く場所が決まっていないので、場所を決めておきたい。

また、ひなんじよ生活ではケージに入れることが必要だ。Zエス 防災のホームページには、「ふだんからケージになれさせておく」とも書かれていた。うちの犬はケージになれていないので、どこかに出かけるときに、ゲージに入れて、なれさせたい。

このように、リードの場所を決めたり、ケージになれさせたりするなど、大切なペットを守るために今からできることがある。できることを、今から、じゅんびしてほしい。

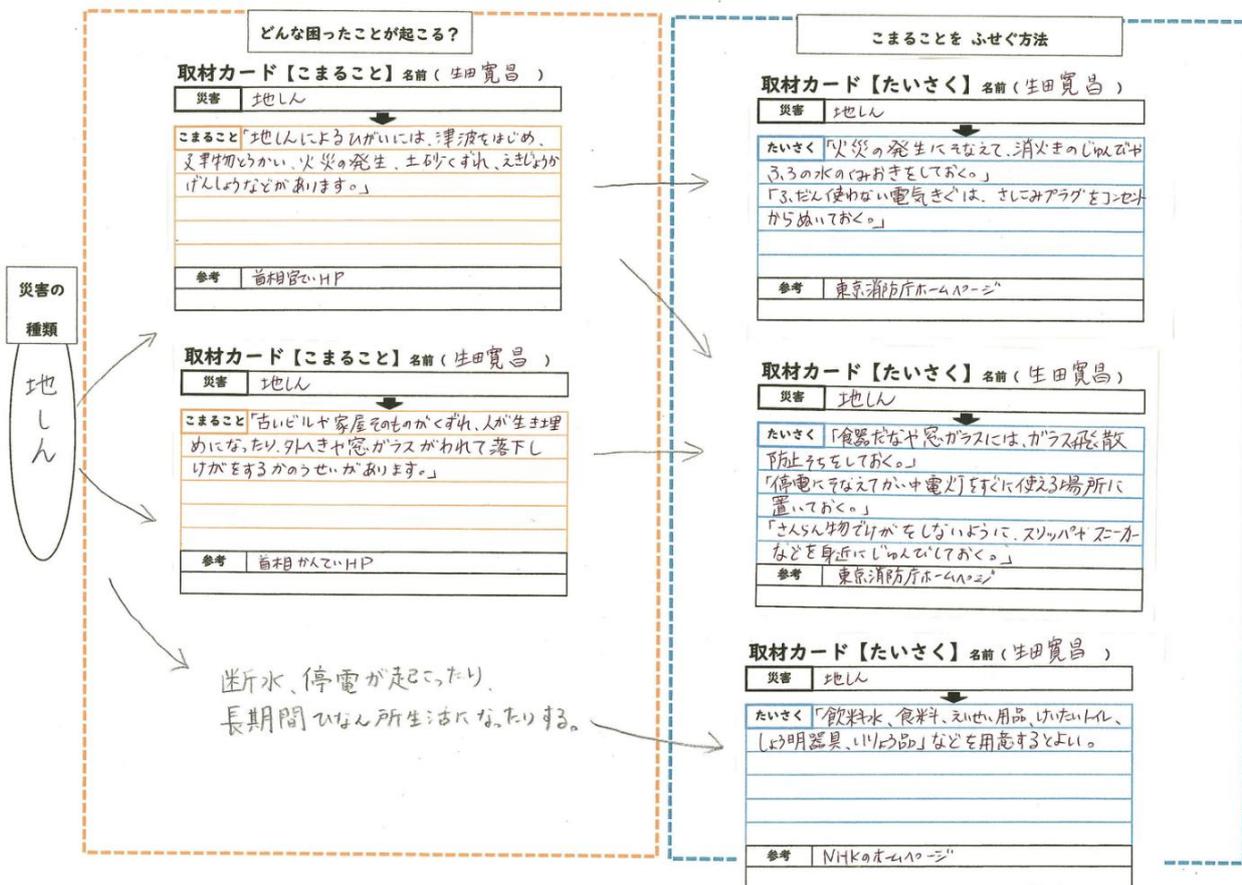
ひなんじよ生活でこまらないためのそなえ

府中市の防災ききかんり課の人が、ひなんじよでは物が少なく、こまることが多いとおっしゃっていた。私は、多摩川がはんらんしてひなんじよ生活になったときにそなえて、食料や水だけでなく、ひなんじよで便利に使えるものを用意したほうがよいと考える。

例えば、ダンボールである。Zエスのサイトによると、ダンボールでベッドを作ることができ、保温性にすぐれていて、人が歩くしんどをおさえることがあると書かれていた。

また、たくさんのビニールぶくろも例として挙げられる。東京ガスのホームページによると、ビニールぶくろは、バケツの代わりとして水を運ぶこと、かんたんな調理、お皿の代わり使うことができるかと書かれていた。ビニールぶくろをもっておけば、いろいろな場面で役に立つと考えられる。

このように、ひなんじよ生活になったときにそなえて、ダンボールやビニールぶくろなどを用意しておくことが大切だと考える。わが家はまだ用意していないので、いざというときにそなえて、ぜひ用意してほしい。



(5) 本時で提示する文例① (不適切な文例)

よびかけ	自分の考え	取材カード【たいさく】名前 ( )	天気予ほうのこまめなかくにん	自分の考え	話題ていじ
		災害 水害			
よびかけ	自分の考え	たいさく 「川がはんらんする前に、すぐひなん することが大切です。例えば、夏から秋にかけて 台風が発生しやすい時期は、テレビ・ラジオ の天気よほうに注意し、天気の移り変わりに 気を付けましょう。」	ダンボールのじゅんぴ	自分の考え	話題ていじ
		取材カード【たいさく】名前 ( )			
よびかけ	自分の考え	災害 水害	ダンボールのじゅんぴ	自分の考え	話題ていじ
		たいさく 「ひなんじょのべんりアイテム。 ダンボールでベッドを作ることが できる。保温性にすぐれていて、人が歩く しんどうをきゅうしゅうするこうかがある。」			

ひなんじょ生活をよりよくするために、べんりに使える  
ものを用意したほうがよい。

ひなんじょ生活をよりよくするために、べんりに使える  
ものを用意したほうがよい。

・ 本時で提示する例② (適切な例)

よびかけ	自分の考え	取材カード【たいさく】名前 ( )	たくさんのビニールぶくろのじゅんぴ	自分の考え	話題ていじ
		災害 水害			
よびかけ	自分の考え	たいさく 「ひなんじょのべんりアイテム。 ビニールぶくろは、バケツの代わりとして水を 運ぶことができ、かんたんな調理もできる。お皿 の代わりにもなり、いろいろなことに使える。」	ダンボールのじゅんぴ	自分の考え	話題ていじ
		取材カード【たいさく】名前 ( )			
よびかけ	自分の考え	災害 水害	ダンボールのじゅんぴ	自分の考え	話題ていじ
		たいさく 「ひなんじょのべんりアイテム。 ダンボールでベッドを作ることが できる。保温性にすぐれていて、人が歩く しんどうをきゅうしゅうするこうかがある。」			

ひなんじょ生活をよりよくするために、べんりに使える  
ものを用意したほうがよい。

ひなんじょ生活をよりよくするために、べんりに使える  
ものを用意したほうがよい。



